

1. 科目名(単位数)	子どもと造形(2単位)	3. 科目番号	SJMP2147								
2. 授業担当教員	盛合 とうこ										
4. 授業形態	演習、講義	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <p>① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>										
8. 学習目標	<p>1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2) 造形を生成する過程について理解している。</p> <p>3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。</p> <p>6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>7) 協働して表現することを通じ、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。</p>										
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	授業内容に関連した制作課題、鑑賞活動の記録、及び振り返りレポートを課す。詳細は授業内で指示する。										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ※授業で必ず使用する。</p> <p>また、授業の進行に伴い適宜資料を配布する。 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【参考書】 「幼稚園教育要領」平成29年告示 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 文部科学省 「保育所保育指針解説」平成30年3月 厚生労働省編</p> <p>【教材】 制作道具・材料については、オリエンテーション時や事前の授業で指示する。 各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。</p> <p>2. 子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。</p> <p>3. 子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果(課題等)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>4. 作品発表、レポート等</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の30%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の20%	3. 制作や鑑賞活動の成果(課題等)	総合点の30%	4. 作品発表、レポート等	総合点の20%
1. 授業への積極的参加	総合点の30%										
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の20%										
3. 制作や鑑賞活動の成果(課題等)	総合点の30%										
4. 作品発表、レポート等	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	授業は、受講生の理解度や作業進度を踏まえて進行するため、授業計画が一部変更となる場合があります。										
13. オフィスアワー	授業前後、またはメール等により随時対応する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	授業内容・目的・評価方法・授業で用意するもの等について説明を行う。また、自己紹介を行う。 【必要な道具】 必要な道具については、前週または授業内で指示する。	事前学習	教科書を一通り確認しておく。 また、自身の図画工作や美術の授業を振り返り、印象に残っている出来事について考える。 それを踏まえ、自身が保育士になった際に、子どもたちが豊かに造形表現できる環境設定について考える。								
		事後学習	自身の子どもの頃からの製作活動を振り返り、感じたことや考えたことをまとめる。								
第2回	カタチの捉え方「動物を描く」 ルビンの壺を用いて動物を表現する。 また、今後の制作に使用するための顔写真撮影を行	事前学習	カタチの捉え方「動物を描く」 ルビンの壺を用いて動物を表現する。 また、今後の制作に使用するための顔写真撮								

	う。		影を行う。
		事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備した対象（モチーフ）を描いてみる。
第3回	五感による表現活動1 スタンプング表現1 「カラフルにぼしの表現」 【必要な道具】絵具、カッター	事前学習	教科書第4章-1を読む。 絵の具を用いた製作活動の経験を振り返り、印象深かった作品（自身の作品、または作家の作品）を書き出す。 製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】 デカルコマニー、糸引き絵、ドリッピング、吹き絵による製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。 また、上記の技法を使用した子どもの造形活動への展開について考える。
第4回	五感による表現活動2 スタンプング表現2 「手相を観察してペイントしよう」 【必要な道具】筆、絵具	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、印象深かった作品（自身の作品、または作家の作品）を書き出す。 製作に向けて、モチーフや参考資料を収集する。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】 パチック、クレヨンスクラッチ、コラージュによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。 また、上記の技法を使用した子どもの造形活動への展開について考える。
第5回	五感をつかった表現3 「右脳を使って表現しよう！」 「見て、触って、たたいて、嗅いで、味わって、りんごを表現する」 見た色、見える色、におい、音、リズムを「絵具・水・紙」で表現する。 ※第5回～第7回は継続した作業とする。 【必要な道具】クレヨン、スケッチブック	事前学習	教科書第4章-2を読む。 ポップアップカードについて調べ、さまざまなポップアップカードのアイデアを書き出す。 あわせて、完成時のイメージをまとめる。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】 ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうなイメージを収集する。 また、今回学習した技法を活用し、作品を制作するとともに、実際の保育現場での利用方法について考える。
第6回	五感をつかった表現2 「りんごの世界」-色彩による感覚表現 【必要な道具】折り紙、のり、はさみ、スケッチブック	事前学習	後日行う影絵制作に向けて、画用紙やはさみなど各種素材の扱いに慣れておく。 あわせて、紙版画の下絵となるアイデアを考える。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】 紙版画の制作活動を振り返り、保育士として子どもが活動する際に配慮すべきポイントをまとめる。 また、紙版画の技法を用いて作品を制作する。
第7回	五感をつかった表現3 「りんごの世界」-触覚による造形表現 触覚を手描かりとする造形表現 まとめ（りんご作品の仕上げ・サイン）および撮影 【必要な道具】新聞紙、のり、スケッチブック	事前学習	教科書第4章-3を読む。 今後、画用紙や版画用インク（または絵の具）を用いて紙版画を制作する際に、どのような工夫ができるかを考え、アイデアを書き出す。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】 紙版画の制作活動を振り返り、授業内で制作した作品以外にも、実際の保育現場での活動や行事等にどのように活用できるかを考え、アイデアを書き留める。
第8回	視点を変えた立体表現1 アルミホイルとティッシュを用いた立体造形 「ルビンの壺-ネガ・ポジ視点でかたちをつくる工	事前学習	立体造形の基礎となるネガ（陰）とポジ（陽）の視点について確認し、形の見え方の違いを意識する。

	夫 「骨格を意識する」 【必要な道具】 ティッシュ、水彩絵の具	事後学習	授業で使用了素材の特性を振り返り、それぞれの素材をどのように活用できるかについて意識を深める。
第9回	視点を変えた立体表現1 アルミホイルとティッシュを用いた立体造形 「ルビンの壺 - ネガ・ポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】 ティッシュ、水彩絵の具	事前学習	前回の授業内容を踏まえ、立体造形におけるネガ（陰）とポジ（陽）の視点を再確認する。
		事後学習	素材の特性を振り返り、形づくりにおいてどのように活用できるかを意識する。
第10回	色水あそびとダンボール造形1 「カタチの見方・捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ（絵具の混色）」	事前学習	モチーフを選び、様々な画材の「色」を用いてクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用い、授業内で学んだ表現方法をもとに制作を行う。
第11回	色水あそびとダンボール造形2 「カタチの見方・捉え方（水彩絵の具による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ（ネガ・ポジ視点）」 【必要な道具】 水彩絵の具、のり	事前学習	五感で感じ、経験した様々な情報を画材の「色」を用いてクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業内と同様の表現に取り組み、課題の技法および表現（水彩絵の具による表現、ネガ・ポジ視点）について理解を深める。
第12回	造形基礎1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	「本物そっくりに上手に描く」ことにどのような意味があるのかについて、自身の経験を振り返りながら考察し、まとめる。
		事後学習	① 各段階における作業目標を意識しながら取り組み、理解を深める。 ② 自身の経験のみに基づいた「わかつたつもり」で作業を進めないよう留意する。
第13回	造形基礎2 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～様々な種類の鉛筆を用いたグラデーション表現を試みる～」	事前学習	現段階における作業の到達点（技法および安全への配慮、カタチの見方・捉え方）を意識し、理解を深めておく。
		事後学習	現段階における作業の到達点（グラデーション表現のコツ、カタチの見方・捉え方）を意識し、理解を深める。
第14回	造形基礎3 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～かたちの見方・捉え方～」	事前学習	現段階における作業の到達点（道具の安全管理・扱い方、グラデーション表現）を意識し、理解を深めておく。
		事後学習	① 各段階における到達目標と、全体の作業段階との関係性を理解する。 ② 全体の作業工程とポイントを意識しながら、理解を深める。 ③ 誰にでも取り組むことのできる表現プログラムについて考察し、まとめる。
第15回	日本と世界の絵画 造形基礎1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	教科書第4章-4を読む。 中学校・高等学校において使用していた美術の教科書やWeb等を用い、好きな作家・作品について調べる。その際、その作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	「本物そっくりに上手に描く」ことにはどのような意味があるのかについて、自身の経験を振り返りながら考察し、まとめる。